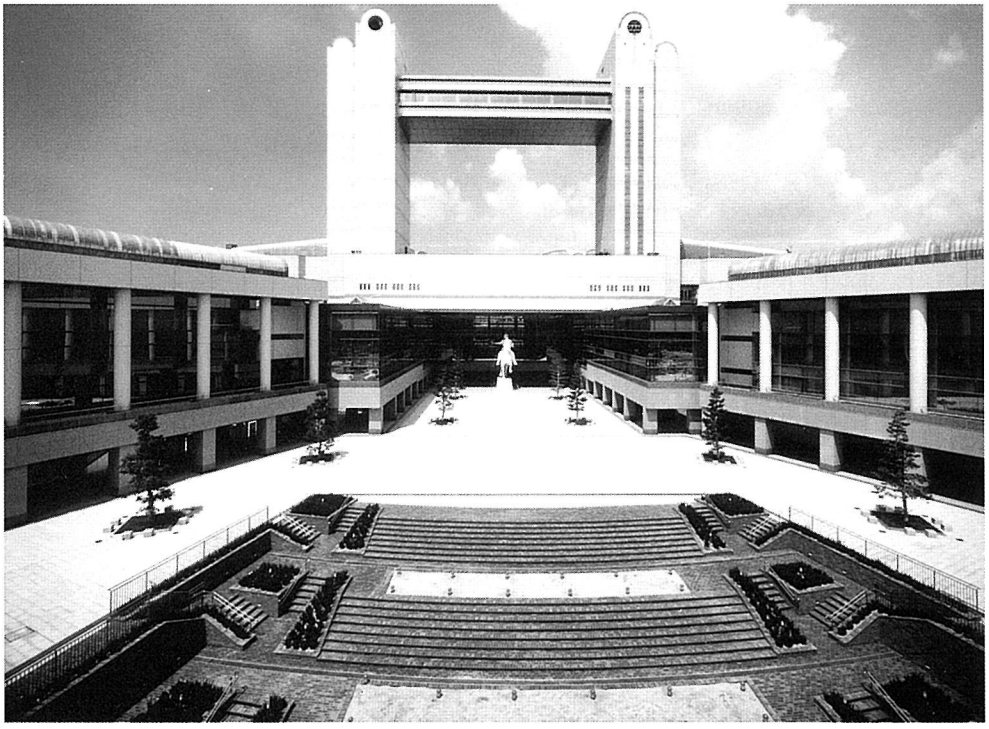
日本産業衛生学会東海地方会
地方会ニュース

発行所　地方会ニュース編集事務局
〒 470－11
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 －98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室内　電話（0562）93－2453
FAX （0562）93－3079
発行責任者　竹内康浩・島　正吾

（題字　皿井　進筆）



第68回日本産業衛生学会が開催される名古屋国際会議場

第68回日本産業衛生学会の開催に向けて

日本産業衛生学会東海地方会長　竹　内　康　浩

新年明けましておめでとうございます。

今年は13年ぶりに日本産業衛生学会が東海地方会で開催されることになり、今回の新年号は学会準備の特集号として発行することになりました。企画運営委員会をはじめ会員の皆さんのご尽力のお蔭で立派な企画ができたと喜んでおります。特別企画としては特別講演の「産業保健の国際動向－21世紀を展望して－」、「分子遺伝学の最近の進歩と産業衛生学」、メインシンポジウムの「21世紀に向けての労働者の健康問題－作業関連疾患の視点から」を中心に、シンポジウム「産業保健とプライバシー」、「作業環境改善につながる環境評価」、「労働現場を中心としたストレス対策」、「小規模事業所の産業保健活動をめぐって」の4題、特別報告「産業衛生学の最近の進歩シリーズ」の19題及び奨励賞授賞講演2題を予定しております。一般演題についてはポスターセッションを充実させたいと準備しております。

第68回日本産業衛生学会は21世紀を展望して大変重要な時期に開催されます。第一にわが国の産業が大きな転換期にあり、必然的にそこに働く人々の労働条件も大きく影響され、産業衛生に新たな課題が提起されつつあります。第二に最近の急速な分子生物学等の進歩に伴い、従来ブラックボックスであった体のしくみが分子レベルで解明されつつあり、産業衛生学の研究方法の革新やその応用面における新たな倫理問題も生起しつつあります。第三に最近の科学技術の革新に基づく生産活動の急速な発展によって、地球規模での環境破壊が身近な問題となっており、地球環境保護と労働衛生の関係が一層密接になってきております。

このような人類史的な大きな転換期に、産業活動に密接な関係を持つ本学会が、産業活動の盛んな当地方会で開催されることは、大変時宜を得たものであるとともに、その責任の重大さを痛感しております。

会員をはじめ参加者の皆さんのご期待に沿えるように、企画運営委員会を中心に全力を尽くす所存でございますので、今後とも学会の成功を目指して皆さんの一層のご協力をお願いして新年のご挨拶と致します。

特集1　第68回日本産業衛生学会開催にあたって

第68回日本産業衛生学会が平成7年4月26～29日にわたり、名古屋国際会議場で開催されます。今回は、特別講演、シンポジウム、特別報告、特別研修会などの内容について特集致しました。（編集部）

特別講演 1　産業保健の国際動向－21世紀を展望して－

日時：平成7年4月27日　14：00～15：00
場所：センチュリー・ホール

小木和孝（労働科学研究所）
座長　岩田弘敏（岐大医衛生）

1971年に提出された英国のローベンス報告以来、ヨーロッパを中心に労働衛生行政の流れに大きな変化が生まれたといわれている。法律に基づいた規制強化により労働衛生行政を推進するのではなく、企業主、労働者の参加を促し、個々の企業の自主的な活動を中心にして労働衛生行政を推進しようというものである。また、国際労働機関（ILO）は，開発途上国の中小企業の労働条件改善プロジェクトを展開しているが、その中心的な活動は、労働衛生法規や研究機関の整備、専門家の養成などではなく、企業主の自主的な産業保健活動を促し、援助するための教育・訓練活動である。

一方、わが国では、QC活動にみられる如く、労働者の参加による生産方法、作業条件の改善活動が活発に行われているが、産業保健活動の一環として位置づけ、実施されている例は少ない。産業保健活動に関しては、疾病予防活動において「健康支援」などの言葉に代表される如く、個々の労働者の自主的な活動を重視する傾向が表れている。しかし、作業環境や作業方法の改善活動においては、依然として専門家に依存する傾向が強いと思われる。

本特別講演では、前ILO労働条件局長として各国の産業保健活動にも精通しておられ、現在も参加型産業保健活動の推進ため精力的に活動しておられる小木和孝先生に、参加型産業保健活動の国際比較、将来の産業保健活動のあるべき姿について講演して頂く。

（井谷　徹）

特別講演 2　分子遺伝学の最近の進歩と産業衛生学

日時：平成7年4月27日　15：00～16：00
場所：センチュリー・ホール

吉田松年（名大医病態研）
座長　竹内康浩（名大医衛生）

最近の分子生物学の進歩は著しく、産業衛生の分野でも多くの応用研究が進みつつあります。産業衛生学は従来、職場の環境因子と生体反応の量・反応関係や量・影響関係を求め、健康保護のための衛生基準を設定するための基礎資料を提供してきました。最近の目ざましい分子生物学の進歩は環境因子による生体反応の機序を解明する手がかりを与えつつあります。環境化学物質については、曝露量と生体影響の生物マーカーが健康管理のための生物学的モニタリングの指標として用いられています。環境化学物質及びその生体内代謝物と蛋白質や遺伝子など重要な生体成分との反応や結合物が分子レベルで解明され、生体影響の指標として利用が拡がりつつあります。さらに、環境有害因子に対する感受性の個体差が遺伝子のレベルで解明されつつあり、感受性の生物マーカーとしても利用される可能性がでてきました。これらの研究成果の応用は、有用性と同時に重大な倫理問題を内包しております。今回は講師として分子遺伝学の専門家に研究の現状を紹介していただき、その産業衛生学分野への応用の可能性や、生起することが予想される倫理問題等を考える上でよい機会となるものと期待しております。講師の吉田松年先生は昭和38年に名古屋大学医学部を卒業され、DNAを中心に遺伝子の生化学研究に従事されてこられた方で、現在は名古屋大学医学部病態制御研究施設の教授です。

（竹内康浩）

メイン・シンポジウム　21世紀に向けての労働者の健康問題
－作業関連疾患の視点から－

日時：平成7年4月27日　16：00～18：00
場所：センチュリー・ホール

座長　島　正吾（藤田保衛大医公衛）
〃　井谷　徹（名市大医衛生）

・労働環境の変容と労働者の健康問題　高田　勗（労働衛生検査センター）
・高齢化と作業関連疾患　和田　攻（東大医衛生）
・作業関連疾患としての腰痛対策　野田一雄（竹中工務店）
・作業関連疾患としての成人病対策　中村健一（昭和大医衛生）

指定発言者：
青山英康（岡大医衛生）、和田晴美（名古屋鉄道）、埋忠洋一（三和銀行）

作業関連疾患は、労働要因が発症に関与している全ての疾患であり、単一の労働要因の影響が強い職業病と、労働要因、非労働要因を含めた多因子により発症するその他の作業関連疾患とを含むものとして定義されています。この作業関連疾患の概念は、わが国のみならず国際的にも、産業保健活動の効果的な展開のために不可欠な概念であると認識されてきており、その予防策の確立は、産業保健実践上の最重要課題となっているといっても過言ではありません。

作業関連疾患が重要視されはじめた背景としては

1）典型的な職業病の原因となるような劣悪な作業条件の減少
2）職場、社会におけるストレス要因の増大とストレス性疾患の増加
3）労働人口の高齢化に伴う成人病などの慢性疾患管理の必要性の増大
4）慢性疾患予防において労働条件改善が重要であるとの認識の増大
5）疾病予防活動において職域集団へ働きかけることの容易さ、有効性の認識増大

などが挙げられます。

今回のシンポジウムは、作業関連疾患の概念規定や発病要因・メカニズムの究明を目的とするのではなく、より実践的な視点から、作業関連疾患の予防策に焦点を当て、職場における実施すべき予防策を明らかにすることを目的として計画いたしました。

井谷　徹

シンポジウム1　産業保健活動とプライバシー

日時：平成7年4月26日　10：00〜12：00

場所：未定

座長　清水善男（三菱電機静岡）

1）プライバシーの保護と法令　濱嶋信之（愛知県がんセンター疫学）

2）プライバシーの保護に関する国際的動向　大林雅之（産医大教養）

3）保健活動とプライバシー　鎌田隆（本田技研浜松）

4）メンタル・ヘルス・ケアとプライバシー　川辺ヒロ子（日本ＩＢＭ）

産業保健活動とプライバシーについては国際職業保健学会（ICOH）が1992年に「職業保健の専門家の為の倫理規約」を公表しました。この規約の中に「健康診断の目的や内容が明確に従業員に知らされること、健診の有効性が確認されること、職業保健の専門家によって従業員のインフォームド・コンセントが確かめられた上で健診がなされること」などが記載されています。昨年フランスのニースにおいて行われた第24回国際会議でもこの問題が活発に討議されました。また、1992年頃からアメリカに端を発した「患者の権利尊重」の流れは新しい医療担当者、患者関係の構築を促しております。この流れは産業保健活動にも及んできており、労働者が種々の健康情報を知り、意志決定の主体となる権利が重視され始めています。

一方、わが国の産業保健活動においては、労働者のプライバシーはさほど重視されていなかったように思われます。例えば、健康診断や健康相談の際に、職業要因の他に、個人の生活歴、既往歴、生活習慣など種々の健康に関する情報を調査したり、検体を採取したりすることがしばしばありますが、これらの情報収集についても、従来は、健康管理の為に必要であれば、プライバシーにふれる問題でも答えるのが当然であり、採取した検体の取扱いも検査する側に一任されると検査する側も検査を受ける側も考えていました。健康診断の実施者である事業主や医療担当者がプライバシーについて考えるのは、個人情報が第3者にもれるのを防ぐのに注意を払う程度でありました。しかし、プライバシーや知る権利が重視され始めた社会の中で、こうした状況は変化せざるを得なくなっていると思われます。

そこで、本シンポジウムでは、わが国の法制度、習慣や国民感情も考慮にいれつつ、わが国の産業保健活動における倫理規定のあり方について、各々の立場からの報告を基に議論を深めたいと思います。

荻田佳子（東海銀行）

シンポジウム2　作業環境改善につながる作業環境評価

日時：平成7年4月26日　14：00〜16：00

場所：未定

座長　中明賢治（麻布大環境保健）

1）環境測定の健康管理への利用　山田誠二（松下産衛科学センター）

2）中小企業における取り組み事例　名古屋俊士（早稲田大理工）

3）化学環境評価と環境改善　中屋重直（岩手医大衛生公衆衛生）

4）生物学的モニタリングと作業環境改善　友国勝磨（佐賀医大地域保健）

健康管理・環境管理・作業管理は、労働衛生の3管理といわれ、三位一体となって作業者の健康を守るとされています。その中で環境管理に関しては、昭和50年に、作業環境測定の質的向上をはかることを目的として、作業環境測定法が制定され、20年が経過しています。作業環境測定法は、場の管理を目的として、単位作業場所の測定結果の統計値から作業場の管理区分を決定し環境評価を行っています。一方、一部の特殊健康診断では、生物学的モニタリングが健康診断項目として導入され、暴露濃度の推定や健康影響評価に利用されております。これらは、手法は異なるものの、作業環境に起因する作業者の健康障害を予防するのみならず作業環境をより快適なものにするという共通の目的を持っております。

しかし、作業環境測定の結果を評価し、それを環境改善に結びつけ、作業者の健康管理に役立てるための確立された方法論が存在していないため、実際の労働現場においては、各担当者が苦労しているのが現実でないかと思われます。

今回企画いたしましたシンポジウムでは、それぞれのフィールドにおいてどのような環境情報を収集・分析し、それをどのように活用されているかの事例をご紹介いただき、労働衛生における作業環境測定の意義について討議したいと考えております。

土屋博信（名古屋市衛研）

シンポジウム3　労働現場を中心としたストレス対策

日時：平成7年4月27日　9：00〜11：00
場所：未定

座長　夏目　誠（大阪府立こころの健康総合センター）
1）欧米におけるストレス対策　原谷隆史（産業医学総合研究所）
2）職場の心理・社会的要因の対策とその評価　川上憲人（岐大医公衛）
3）作業負荷と作業者のストレス　藤垣裕子（東大教養）
4）職場におけるソーシャル・サポートシステム　飯田英男（健康管理コンサルタント）

近年、職業性ストレスについての関心が高まっており、問題解決のための多角的なアプローチがおこなわれつつある。本シンポジウムで、現場でのストレス対策はいかにあるべきかということに焦点をしぼり、シンポジストの方々の報告をもとに参加者を交え議論を深めたいと思う。原谷先生には、米国およびヨーロッパのストレス対策の現状をご紹介いただきながら、わが国のストレス対策の方向性について論じていただく。藤垣先生には、作業態様、作業負荷と作業者の受けるストレスとの関連についてご指摘いただきながら、可能なストレス対策について論じていただく。川上先生には、健康に影響をおよぼす職場の心理・社会的要因とその評価について解説いただき、それへの職場での対策を論じていただく。飯田先生には、職場ストレスに対する有力な対策の手がかりとなるソーシャル・サポートについての考え方やシステムについて論じていただく。

小林章雄（愛知医大衛生）

シンポジウム4　小規模事業所の産業保健活動をめぐって
−だれがイニシアティブをとるべきか−

日時：平成7年4月28日　10：00〜12：00
場所：未定

座長　佐藤　洋（東北大医衛生）
1）小規模事業所の産業保健活動　広瀬俊雄（仙台錦町診療所）
2）地域産業保健センターの役割　馬場快彦（福岡産業保健推進センター）
3）産業医組織の役割　服部於菟彦（愛知県医師会）
4）企業外健診機関の立場から　加藤保夫（岐阜県産業保健センター）

小規模事務所、特に産業医選任の義務のない従業員50人未満の事業所における産業保健活動をどう展開するかは、産業衛生の重要な課題として古くから議論されてきた。労働行政の面でも、労働条件改善のための種々の助成制度を始めとする取り組みが行われているが、十分な成果があがっているとはいい難い状況である。そうしたなかで、地域産業保健センターが発足し、活動を開始しているが、発足して間もないため、今後の活動の展開については不明な点も多い。

本シンポジウムでは、地域産業保健センターの活動も注目しつつ、地域における小規模事業所における産業保健活動の新たな展開方法について議論を深めたい。広瀬先生には、小規模事業所における産業保健活動の現状と有るべき姿、馬場先生には地域産業保健センターが設立された目的と活動の将来像、服部先生には地域の医師会や医療機関の果たすべき役割、加藤先生には企業外健診機関が健康診断の提供以外に果たすべき役割について発言いただき、事業主や労働者の活動との関連で、産業保健活動の支援方法と関連機関の役割について議論を深めたい。　榊原久孝（名大医公衛）

ポスターセッション、特別報告、奨励賞受賞講演について

竹内康浩（名大医衛生）

今回は新しい工夫として、ポスターセッションの充実、特別報告の実施、奨励賞受賞講演の新設があります。それぞれの意図及び趣旨を説明させていただきます。

ポスターセッション

日時：平成7年4月26日　13：00〜14：00　場所：1階イベントホール
4月28日　13：00〜14：00

内外の多くの学会で実施されて、好評を博しているものであります。長所として、1．写真、図、表など視覚に訴える発表に適しており、2．その課題に関心の高い人が発表者とじっくり討論ができ、3．興味ある発表に集中して参加でき、有効で効率的な発表形式です。当日はコピーサービスなどの便宜を図る予定です。従来、会場の都合や時間の制限のために不評な例もありましたが、今回は広い便利な会場を使い、時間も特別に用意して有意義で充実したものにしたいと計画しております。ポスターセッションへの参加をお願い致します。

特別報告　産業衛生学の最近の進歩シリーズ

日時：４月26日　10：00〜11：00
　　14：00〜14：30
　　28日　９：00〜９：30
　　14：00〜14：30
個々の演題の場所と時間枠は未定

これは一昨年横浜で開催された学会ではじめて実施され、好評を博した企画です。今回もそれを引き継ぎ発展させたいと考えております。それぞれの分野の最近の進歩、トピックス等を専門家にレビューしていただくもので、関連する一般発表の会場での発表を約19題予定しております。産業衛生の実践活動に際しては、専門分野のみでなく産業衛生学の広い分野の知識が要求されます。

これは１．広く最近の情報や知識を能率的に得ることができるよい機会となり、２．その後の一般発表を理解する上でもよい助けとなり、３．その分野の研究者にとっては、自分の研究の位置付けや方向性を考えるよい機会となるものと期待しております。

１．労働者の飲酒習慣と「問題飲酒」
　　神山　昭男（北大医衛生）
　座長　三宅浩次（札幌医大公衛）
２．電磁揚による健康影響
　　中川　正祥（鉄道総合技研）
　座長　滝沢　行雄（秋田大医公衛）
３．職域における循環器疾患と危険因子―その動向と予防―
　　岡山　明（滋賀医大福祉保健医学）
　座長　新井　宏朋（山形大医公衛）
４．健康度評価と２、３の問題点
　　入谷　辰男（トヨタ自動車産業医）
　座長　飯田　英男（健康管理コンサルタント）
５．金属の免疫毒性
　　栗田　秀樹（藤田保衛大医衛生）
　座長　圓藤　吟史（大阪市大医環境衛生）
６．環境発ガン要因の危険度評価
　　佐藤　茂秋（神戸大医衛生）
　座長　小泉　昭夫（秋田大医衛生）
７．産業神経行動学の最近の話題
　　―有機溶剤の暴露影響検出に有効な機能テスト―
　　岸　玲子（札幌医大公衛）
　座長　伊規須英輝（産医大生態研）
８．産業疲労対策と職場改善
　　酒井　一博（労　研）
　座長　斎藤　良夫（中央大）
９．作業関連運動器障害研究の国際動向
　　小野雄一郎（名大医衛生）
　座長　大原　啓志（高知医大公衛）
10．職業性喘息・最近の話題
　　城戸　優光（産医大呼吸器科）
　座長　日下　幸則（福井医大環境保健）
11．職業性皮膚疾患の最近の話題
　　早川　律子（名大分院皮膚科）
　座長　上田　厚（熊大医衛生）
12．VDT作業の視覚疲労と生理的評価
　　斉藤　進（産医研）
　座長　中迫　勝（大阪教育大）
13．農薬中毒研究の最近の話題
　　山内　徹（三重大医公衛）
　座長　山根　洋右（島根医大環境保健）
14．振動障害の最近の話題
　　二塚　信（熊大医公衛）
　座長　松本　忠雄（名市大医公衛）
15．ライフスタイルと健康度
　　森本　兼曇（阪大医環境）
　座長　鈴木　庄亮（群馬大医公衛）
16．バイオマーカーの最近の進歩
　　那須　民江（信大医衛生）
　座長　佐藤　章夫（山梨医大保健）
17．職場における口腔衛生の最近の話題
　　渡辺　達夫（岡大歯予防歯科）
　座長　金山　敏治（愛知県歯科医師会）
18．職場における精神保健・最近の話題
　　島　悟（東京経済大）
　座長　野崎　貞彦（日大医公衛）
19．産業衛生における国際協力
　　久永　直見（産医研）
　座長　三角　順一（大分医大公衛）

奨励賞受賞講演

日時：平成７年４月27日　13：00〜14：00
場所：センチュリー・ホール

産業衛生学会では、平成元年から学会奨励賞が毎年２名の若い優れた研究者に授与されてきました。従って、平成６年までには12名が受賞しましたが、学会での受賞講演は実施されてきませんでした。

新進の優れた研究者の受賞講演はその学問分野の新しい息吹を示してくれるもので、衛生学会をはじめ多くの他の学会でも好評を得ています。

今回は理事会の了承を得て産業衛生学会としてははじめて実施されるものですが、必ず実り多い講演となり、引き継がれて行くものと期待しております。

特別研修会

日　時：平成7年4月29日（土）
場　所：名古屋国際会議場（センチュリー・ホール）
テーマ：職場における健康保持増進の今日的課題

講演1：国際化と感染症対策　磯村思无（名大・医・医動物）
10：10〜11：10　座長　加藤英彦（愛知県医師会副会長・産業医部会長）

2：ライフスタイルからみた成人病予防
11：10〜12：10　交渉中
座長　岩井　淳（全日本労働福祉協会）

3：健康の保持増進と運動・休養
13：00〜14：00　太田壽城（国立健康栄養研究所）
座長　荻田佳子（東海銀行）

4：騒音障害防止のためのガイドラインと聴力障害予防
14：00〜15：00　伊藤昭好（労働科学研究所）
座長　岩田弘敏（岐大・衛生）

5：最近における精神疾患の変容とメンタルヘルス
15：00〜16：00　笠原　嘉（藤田保衛大・医・精神医学）
座長　祖父江逸郎（愛知医大学長）

共　催：日本産業衛生学会　教育・資料委員会
日本産業衛生学会　東海地方会企画運営委員会

恒例の特別研修会を、学会最終日に開催いたします。

今回は、テーマを「職場における健康保持増進の今日的課題」とし、まさに現在職場で問題となっている5つの身近なテーマを取り上げます。

講演1は、「国際化と感染症対策」です。ご承知のように最近のわが国の産業は国際化が著しく、海外派遣者は世界中のあらゆる地方・国で活躍するようになり、それらの方々の健康問題も多様になってきています。

まず、感染症の面から名古屋大学医学部医動物学教授の磯村思无先生の長年のご経験から、派遣前・中・後の問題を具体的に取りあげていただき、対策方法についてお話していただきます。

講演2は、「ライフスタイルからみた成人病予防」です。職場における成人病対策は、まさに今日的課題ですが、その範囲は職場内にとどまらず、労働者個人の私生活にも働きかけなければならないという困難性があります。

そこで、成人病発生の要因としてのライフスタイルことに食生活における最新の問題点を明らかにしていただき、これからの方向性を考える糸口としたいと考えます。

講演3は、「健康の保持増進と運動・休養」です。これは「講演2」と対となるもので、ここでは健康づくりのなかでも運動・休養の側面から国立健康栄養研究所の太田壽城先生にお話をしていただきます。

太田壽城先生は、運動処方などはもちろんのこと最近では「休養」の研究を進められており、運動・休養についての最新の考え方についてお話していただきます。

講演4は、「騒音障害防止のためのガイドラインと聴力障害予防」です。労働省は、平成4年10月に上記のガイドラインを公表しました。しかし、現実にはこれを職場のなかで具体的に展開するのには種々の困難性と問題があります。

労働科学研究所の伊藤昭好先生は工学博士であり産業現場にも詳しく、長年作業環境管理および人間工学的側面から騒音障害予防に取り組んでおられます。先生の豊富な経験から、具体的な騒音障害防止対策についてお聞きできると思います。

講演5は、「最近における精神疾患の変容とメンタルヘルス」です。メンタルヘルスの問題は、どんな職場にもあり、いずれもその対策に苦慮しておられることと思います。

その背景には多くの要因があることが推定されますが、その1つに精神疾患の病像が従来とは異なった様相を呈してきていることがあります。

これらについて、藤田保健衛生大学医学部精神医学教授の笠原嘉先生に、最近における精神疾患の変容についてわかりやすくお話していただく予定です。

この研修会は、学会員・非学会員を問わず事業所などで実際に労働衛生に関連した業務に従事している産業医・産業看護職・衛生管理者の方々を対象としています。

この研修会に一人でも多くの方々にご参加いただき、職場の健康管理にお役立ていただければ、企画担当としまして、これにまさる幸せはございません。多数の方々のご参加を心よりお待ちしております。

なお、本年は特別研修会を開催するため、毎年東海地方会の事業として開催してまいりました「産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会」は中止させていただきます。

今回は、是非「産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会」に変わって、この特別研修会にご参加くださるようお願い致します。

（五　藤　雅　博）

第68回　日本産業衛生学会および特別研修参加の手引き

1．第68回　日本産業衛生学会への参加

参加費等は産業医学第56巻5号に綴じ込んである振替用紙でお支払いください。

会員以外の当日の参加を歓迎します。

但し、当日の参加費は9,000円です。

第68回　日本産業衛生学会は、日本医師会認定産業医制度による生涯研修の更新研修として指定を受ける予定です（10単位）。

単位認定を必要とする方は、研修手帳をご持参下さい。

2．特別研修会の参加申し込み

参加費は産業医学第56巻5号に綴じ込んである振替用紙にてお支払いください。

参加費を前納された方には受講票と引き換えに、当日資料を差し上げます。

会員以外の当日の参加を歓迎します。

但し、当日の参加費は7,000円です。

特別研修会は、日本医師会認定産業医制度による生涯研修の更新研修として指定を受けております（5単位）。

単位認定を必要とする方は研修手帳をご持参下さい。

当学会、研修会についてご質問、お問い合わせについてはお気軽に下記事務局まで。

事務局　〒466　名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部衛生学教室
第68回　日本産業衛生学会企画運営委員会事務局
TEL 052-741-2111 内線 2068　FAX 052-741-8930

特集2　第4回産業医・産業看護全国協議会

第4回産業医・産業看護全国協議会について

小森義隆（大同病院）

第4回産業医・産業看護全国協議会は、全国産業安全衛生大会が、名古屋で開催された関係で、東海地方でお世話することになり、大会前日の10月18日（火）に、名古屋市の愛知県中小企業センターで開催された。参加者は約300名であった。

従来の全国協議会は、半日、産業医部会、産業看護部会が別々の会合を開き、午後合同協議会を開いてきたが、今回は産業医、産業看護職が一日同じ会場で、お互いの意見を聞く形の会合にした。内容としては出来る限り現場における実践活動、経験を報告していただくことにした。午前中には事例報告3題、産業看護教育についての報告があった。午後は愛知産業保健センターが、アンケート法で実施した、愛知県の中小企業における産業保健の現状についての実態調査の報告があり、更に課題報告として「中小企業と関連企業の健康管理支援」について4題の報告があった。

今年は日本産業衛生学会専門医が14名初めて誕生した。そこで新しく専門医になられた3名の方に、若い産業医の意見を開陳していただく座談会が行なわれた。

又産業医部会への要望で全国協議会の前日の夜、「自由討論集会－産業医活動の経験交流－失敗例・成功例とその教訓」が行なわれた。30数名の参加を得て、活発な会となった。

第4回産業医・産業看護全国協議会に出席して

内藤嘉之（豊田自動織機）

第4回産業医・産業看護全国協議会は、小森義隆先生の主宰で、10月18日愛知県中小企業センターで開催された。午前中は事例報告3題と、産業看護教育について坂本弘、奥井幸子両教授の講演が行われた。

午後、「愛知県の中小企業における産業保健の現状についての実態調査」が、愛知産業保健推進センターの佐久嶋先生より報告され、調査内容の詳細は冊子にまとめられて配布された。今迄このような実態調査は少なく、興味深い報告であった。次に、課題報告「中小企業と関連企業の健康管理支援」では、企業外労働衛生機関四施設から、その現状が発表された。労働衛生機関が難問に取り組みながら、中小企業の健康管理に重要な役割を担っていることが認識された。また、企業外労働衛生機関が新しい産業保健サービスの提供を実施していることも紹介された。今後ＴＨＰ、腰痛予防対策などを推進するに当たって、医学的な専門知識が要求される場合が多くなると考えられる。企業内でこれらすべてに対応することには限界があり、企業外労働衛生機関の支援が必要になってくると思われる。

最後に、今年始めて日本産業衛生学会専門医に認定された三先生による座談会が行われた。各先生より、専門医の役割に関して前向きに抱負が述べられた。今後、多くの若い専門医の諸先生が企業現場で活躍され、産業衛生分野の一層の発展を期待いたします。

第4回産業医・産業看護全国協議会に出席して

伊藤光世（東海銀行）

「働く人の心に届く健康支援」というメイン・テーマに産業保健チームとしての産業医・産業看護職が一同に集まり研鑽する機会を得たことは、今後の産業保健活動において大きな第一歩であると思います。お互いの立場・役割の理解を深め、認め合う機会として大変有意義な一日でした。

産業看護教育では、産業看護講座の有り様が明確にされ、今後も産業看護教育のシステムづくりが進められていくことは、産業看護の独自性と学際的なチームの一員としての役割を担うために、自己研鑽していく上で大変意味のあることであると思います。

座談会では、新しく専門医になられた先生方の熱意が会場の隅々まで伝わり、さらに専門性を追究し産業保健活動の充実に向けて経験を重ねていかれるであろうと明るい未来を感じました。

労働者の働く場は中小企業・大企業など規模の差はあるものの、産業保健サービスは同様に受けられなくてはならないのであり地域産業保健センターや企業外労働衛生機関の取り組みが、それぞれのニーズを的確にとらえ、きめこまやかに対応することにより、産業保健全体の向上につながっていくことと思います。

今回の事例発表を通じて、自分達の活動を常に評価することにより、まさに働く人の心に届く健康支援につながるのだと痛感し、問題意識を持ち続けていきたいと思いました。

産業医活動の経験交流―失敗例・成功例とその教訓―

石川　昭（三菱化学四日市）

10月17日（月）午後6時より産業医活動の自由討論集会が、広瀬先生（宮城）の司会で行われ、約50名の先生方が集まられた。

石川県の服部先生、ついで産業医大の寶珠山先生がそれぞれの御経験、御苦労話しをされ、広瀬先生からも種々の問題の成功事例と不十分な事例等の報告、ご意見があった。ついで討論では諸先輩の先生方から活発な発言があった。

要約すると、産業衛生に関して会社は産業医まかせである（産業医と会社との間の相互認識の不十分さ）、従って企業のトップの理解を深めるために産業医がもっとトップに会う機会を作るべきである。又産業医は安全等にもっと踏み込み、安全対策等で欠けている人間の行動の問題から、対策を提言すべきであるとの意見があった。

主として中小企業を中心としたお話しが多かったが、すべての企業が、このような問題点は大なり小なり抱えているわけであり、大変感銘を受けた。今後ともこのような集会が続く事を望む。

平成6年度　東海地方会学会

東海地方会学会を担当して

井　谷　　徹（名市大・医・衛生）

前日の雨もすっかり上がり、秋晴れの11月19日、平成6年度東海地方会学会を名市大医学部において開催致しました。参加者は約150人で、予測人数をやや下回りましたが、ご参加頂いた方々は熱心な方が多く、発表に対する質疑・討論も活発に行われました。

学会は、午前中2つの分科会会場で一般演題発表を行い、午後のセッションは、島日本産業衛生学会理事長、竹内東海地方会会長のご挨拶で開幕した。竹内地方会長からは、来春、名古屋市において開催される日本産業衛生学会の準備状況の報告と、学会を成功させるため、東海地方会員が一致協力して頂きたいとの要請が行われた。その後、山田信也名大医学部名誉教授の特別講演、パネル・ディスカッションを開催した。

一般演題は25題と例年並の数であったが、全国学会や他の学会で発表したものを焼き直したようなものは少なく、内容も全国学会のものと遜色なく、我が地方会学会の質の高さが示されていた。しかし、発表形式では地方会の特徴を生かす工夫が足りなかったと反省している。十分な発表・討議時間の確保や、ラウンド・テーブル・ディスカッション形式の導入、オーディオ・ビジュアル装置の積極的利用など討議を活発化する工夫が必要だったと感じている。次回以降の地方会学会開催時には是非ご検討頂きたい。

特別講演は、「21世紀に向けての産業衛生の課題」と題して、山田先生が取り組んでこられた産業衛生分野の研究課題について産業衛生研究に対する先生の哲学も含めご紹介頂くとともに、今後我々が取り組むべき課題、研究の方向、産業衛生が果たすべき役割などについてご講演頂いた。パネル・ディスカッションでは、山田先生の講演を受け、専属産業医、医師会産業医部会、保健婦、衛生管理者、労働組合それぞれの立場から、産業衛生活動の現状と将来の課題について討議を行った。非常に大きなテーマであり、討議により一定の結論や方向性が見いだされることはなかったが、産業衛生活動が社会の中において役割を果たすためには何をすべきかを考えるためのキーワードを提示する事は出来たものと考えている。

特　別　寄　稿

韓国勤労者職業病予防事業

久　永　直　見（労働省産医研）

韓国にいる間、農楽を数えきれないほど聞いた。杖鼓、小鼓、鉦などの打楽器に、胡笛の何とも言えぬ甲高い音が加わった囃が始まると、誰でも気持ちが浮き立ってくる。農楽隊の先頭は、「農は天下の大本」と大書した幟だ。たしかに韓国は少し前までは農業国だった。1960年の就業者数構成でも、65%が第一次産業だ。それが、93年には15%に減った。韓国は、産業面ではすっかり変わったといえるだろう。

筆者は、国際協力事業団から1年間、韓国勤労者職業予防事業に派遣され、94年8月に帰国した。この事業は、92年に5年計画で始められており、日本側の国内委員会委員長は、岐阜大名誉教授の館正知先生である。事業内容は、韓国産業安全公団産業保健研究院、大韓産業保健協会、順天郷大学校を対象とした労働衛生関係技術の移転である。当地方会関係では、既にトヨタの入谷辰男先生が来られ、腰痛予防を中心に指導されており、韓国からの研修員も藤田保健衛生大、名大、旭労災病院などで学ばせて頂いている。韓国政府は、本事業の期待効果を、「日本の職業病予防に関する技術を導入することにより、根源的な職業病予防の基盤を構築すること」（韓国労働白書、1993）としている。筆者の担当は、労働衛生一般につき、韓国側に情報の提供や技術面の支援をすることで、島正吾先生（釜山のベリリウム肺疑い例の病理診断）、岩井淳先生（産業保健センターに関する情報）、酒井潔先生（釜山の中皮腫患者の肺内石綿分析）など多くの方からのご援助が非常に役立った。

1年の仕事を通じて、韓国には、韓国型というべき労働衛生活動が急速に育っていると感じた。その特色は、民間団体である大韓産業保健協会が主導的役割を果していること、産業医学研究所を持つ大学が15ヶ所に上り、大学と実際活動との結び付きが強いこと、中小企業に対する集団保健サービスなどである。現在の韓国には、新旧の労働衛生の課題が、工業化が急速であっただけに、激しく混在しているが、対策の進歩もめざましい。米国、ドイツ、日本などのプラスの経験、マイナスの経験が上手に取り入れられており、的確に施策が展開されてゆけば、いつか韓国は工業化と安全衛生の両立に一定度成功した国として、他の国々に貴重な経験を提供するだろうと思われた。今回の日本の協力が期するところを全うできれば、その意義は大きいといえよう。

本年5月に、韓国中部の大田市で開かれる第9回日韓産業保健学術集談会に出席してみませんか。韓国の労働衛生に関心をお持ちの方は、公衆衛生58巻8号（1994）もご覧下さると幸いです。

話　　題

禁煙補助剤ニコレット

谷　脇　弘　茂（藤田保衛大・医・公衛）

タバコの煙には、ニコチン、種々の発がん物質・発がん促進物質、一酸化炭素、種々の繊毛障害性物質等、現在分かっているだけでも4,000種以上の化学物質が含まれている。そのため、喫煙者では肺がんをはじめとする種々のがん、循環器系に対する障害、閉塞性肺疾患、消化器疾患などの罹患リスクが増大することは周知の事実である。

しかし、平成５年の日本たばこ産業株式会社の全国たばこ喫煙者調査によると、我が国の20才以上の喫煙率は、男性59.8%、女性13.8%であり、男性に関しては昭和41年以降漸減傾向にあるが、他の先進諸国に比べてかなり高率である。

一方、女性の喫煙率は、他の先進国と比べて低率であり、ほぼ横ばい状況が続いている。しかし女性の20歳代、30歳代を見ると、この20年間は増加傾向にある。

現在欧米諸国では、喫煙者の禁煙対策が積極的に行なわれており、喫煙者に対する周囲の対応も徐々に強化されて来ている。

わが国でも公共の場所や、事業所に禁煙、分煙運動が積極的に取り入れられてきている。

このような状況の中で、欧米では出来るだけ禁煙が容易に実施できるように禁煙補助剤が製造され、その効果が評価されるようになって来ている。

わが国においても禁煙補助剤として、喫煙者の喫煙に最も関係深いニコチン成分を含んだガム（商品名：ニコレット）が発売された。これはマリオン・メレル・ダウ社が製造販売元となっており、ニコレット禁煙プログラムに基いて禁煙指導するものである。このプログラムには、禁煙補助剤の使用方法以外にも、カウンセリングや患者用禁煙ノート等のサポート資材についても説明が加えられている。しかし、ニコチンという有害物質を取り扱うことから、喫煙者が独自で購入できるものではなく、医師の診察及び処方箋が必要となっている。

本剤の適応症は、循環器、呼吸器、消化器疾患などを基礎疾患に持ち、禁煙が必要と診断された患者であり、単にたばこをやめたい人のために発売されたものではない。医師の診察により禁煙が必要と診断された喫煙者が、医師の指導のもとに行なう禁煙の補助が最大の目的となっている。

事業所における日常の診療の中で、疾病を持つ禁煙させたい従業員に対する１つの手段として、その効果的な利用が期待される。

新　春　随　想

バ　ギ　オ

小　篠　　築（大同特殊鋼）

マニラに住んでいますと、１年中半袖のシャツで過ごせますが、マニラの北250キロのバギオ市へ行きますと、平均気温18度でここには松林があり、日本に似た風景がみられます。海抜1,400の高地で、急峻な坂道が多くみられます。フイリピンのお役人などは、退職後はここに家を建てて住むのが、理想と考えているそうです。

明治の初め、バギオに入るベンゲット道路を建設するために各国の労働者が働きましたが、難工事のため失敗の連続でした。最後に日本の労働者が、多大の犠牲を払いながらも完成させました。

昨年（1993）の暮れの30日から元旦まで、バギオで過ごしました。日本人が建てた「白雲荘」に泊まりました。ベッドの部屋ですが、部屋には日本式の浴槽がありました。ただし、みんながお風呂を使うとお湯がでなくなります。日本人の数家族が年越しに泊まっていました。当地はこの時期はものすごく寒く、毛糸のセーターが必要で、「こたつ」を出すほどといわれ、厚手の衣類も準備してきましたが、今回は寒さもそれ程でなく、日本の初秋のような感じでした。

大晦日は食堂に日本人家族が集まり、故郷を偲んで日本酒の盃を重ね、久しぶりで、落ち着いた充実したひと時を過ごすことができました。翌日は元旦で、おせち料理もでて、かまぼこ、ごまめ、お雑煮、赤飯と盛り沢山で、日本のお漬物までありました。

第65回　日本衛生学会総会御案内

学会長　島　　正　吾

下記により第65回日本衛生学会総会を開催致します。多数の会員のご参加をお願い致します。

Ⅰ．と　き：平成７年３月29日（水）～３月31日（金）

	午　前	午　　後	夜
３月29日(水)	幹 事 会	評 議 員 会 教 育 協 議 会	
３月30日(木)	一般発表	総　　会 奨励賞受賞講演 次期会長講演	懇 親 会
３月31日(金)	一般発表	一　般　発　表	

備考：本予定は調整のため多少変更することがあるかもしれませんがご了承ください。

Ⅱ．ところ：

- 藤田保健衛生大学医学部
  （〒470-11　愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪１－98）
  ３月29日（幹事会、評議員会、教育協議会）
  ３月30日（総会、奨励賞受賞講演、次期会長講演、一般発表）
  ３月31日（一般発表）
- ホテルナゴヤキャッスル　天守の間
  （〒451　名古屋市西区樋の口町３－19）
  ３月30日夜（懇親会）

会員の表彰

勲二等旭日重光章　祖父江　逸　郎（愛知医大学長）
黄綬褒章　加　藤　竹　男（労働衛生コンサルタント）
中災防緑十字賞　臼　田　多佳夫（聖隷健診センター）
労働大臣団体賞　衛生管理業務女子研究会

会員の異動

新入会員

愛知　相澤いづみ（第一なるみ病院）、生野忠徳（豊田健康管理クリニック）、伊藤正幸（わしづか歯科）、市川容子（大同病院）、小川次子（花王豊橋）、小椋美恵子（社会保険健康事業財団）、黒田智寛（東芝愛知）、後藤英太（東海労衛検診クリニック）、高井雅世（大同病院）、長谷川千尋（はせがわ歯科）

三重　鳴神雅典（鳴神歯科）、下町敏江（松下冷機精密部品）、長谷川早苗（社会保険健康事業財団）、水谷忠司（水谷歯科）

岐阜　大橋たみえ（朝日大歯口衛）、田代美代子（岐阜県産業保健センター）、山岡京子（社会保険健康事業財団）

静岡　宮本富士枝（社会保険健康事業財団）

退会

愛知　足立一郎（明治生命）、高橋昭夫（白壁循環器内科）、兒島昭徳（名古屋市衛生局）、西村典子（愛医大衛生）、西村久雄（愛知みずほ大人間科学）

静岡　小関信幸（大昭和製紙富士）、後藤美紀（ごとう歯科）、藤井則弘（浜松労災病院）、村田純子（静岡県大食品栄養公衛）

転入

平　貢秀（東芝富士・東京より）、中里佳恵（松下産衛科学センター・東京より）、中森英二（中京大学・大阪より）

転出

市村尚二（東芝愛知）、久永直見（名大衛生）、清水容子（岐大医衛生）以上３名東京へ

地方会理事会

第68回日本産業衛生学会・第２回企画運営委員会
日　時：平成６年９月６日　場　所：名大医鶴友会館大会議室
１．特別企画（井谷）
２．特別研修会（五藤）
３．協賛金、展示、広告（山田（琢））
４．広報活動（吉田）

平成６年度・第３回理事会
日　時：平成６年９月６日　場　所：名大医鶴友会館大会議室
出　席：32名　委任状：47名
１．報告事項
　１）本部からの報告事項（島）
　２）事務局からの連絡事項（柴田）
　３）第９回健康度評価研究会報告（入谷）
　４）地方会ニュース皿井先生追悼特集号（島）
２．協議事項
　１）地方会ニュース（吉田）
　２）第４回産業医・産業看護全国協議会（小森）
　３）平成６年度東海地方会学会（井谷）
　４）平成７年度東海地方会総会並びに研修会
　５）平成７年度東海地方会学会
　６）関連学会・研究会

第68回日本産業衛生学会・第３回企画運営委員会
日　時：平成６年11月１日　場　所：名大医鶴友会館大会議室
１．特別企画（特別報告）（井谷）
２．特別研修会（五藤）
３．協賛金、展示・広告（山田（琢））
４．広報活動（吉田）

平成６年度・第４回理事会
日　時：平成６年11月１日　場　所：名大医鶴友会館大会議室
出　席：33名　委任状：46名
１．報告事項
　１）本部からの報告事項（島）
　２）事務局からの連絡事項（柴田）
　３）第４回産業医・産業看護全国協議会（小森）
２．協議事項
　１）地方会ニュース33号（吉田）
　２）平成６年度東海地方学会（井谷）
　３）平成７年度東海地方会総会並びに研修会（加藤（保））
　４）平成７年度東海地方学会（島）
　５）関連学会・研究会

これからの諸行事予定

１．第８回職業性肺疾患研究会
　期　日　平成７年２月18日（土）　14:00～16:30
　場　所　名大医学部　大学院ゼミナール室
　　（基礎棟２階医学部事務室隣）
　「じん肺の合併症をめぐって－アスペルギルス症を中心に－」
　　五藤雅博
　「岐阜県東濃地方のじん肺の現況」　加藤保夫
　「じん肺の歴史の新知見」　吉野貞尚
　一般演題申し込み先　名大医学部衛生学教室　柴田英治まで
　　世話人　立川壮一、吉野貞尚、加藤保夫
２．The 3rd Asia - Pacific Environmental and Occupational Dermatology Symposium
　日程：平成７年３月24日～26日　場所：名古屋国際センター
３．第65回日本衛生学会
　日程：平成７年３月29日～31日　場所：藤田保衛大
４．第68回日本産業衛生学会
　日程：平成７年４月26日～29日　場所：名古屋国際会議場

編集後記

謹んで新春のお喜び申し上げます。
いよいよ、今年は「第68回日本産業衛生学会」が、４月26日～29日、愛知県で開催されます。担当である当地方会は、昨年に引き続き、学会の仕上げの準備が急ピッチで進められています。地方会ニュースにも学会の内容や新しい情報、報告が満載されています。今年も、どうぞ学会成功に向かってのご意見、ご感想等をお寄せくださいますようお願いいたします。私事で恐縮ですが、年頭の編集後記の順番に当たり、編集委員会への出席が少なく、存在感の薄い委員であったことを反省し今後はできるかぎり頑張る所存でございます。
「まことに日に新たに、日々新たに、また新たなり」
（清水高子）

次回発行　平成７年５月１日
編集責任者　吉田　勉（聖隷健診センター）
編集委員（五十音順）
井谷　徹（名市大）　岩井　淳（全日本労働福祉協会）
大久保浩司（東芝四日市）　加藤　保夫（岐阜県産業保健センター）
鎌田　隆（本田技研浜松）　後藤　猛（労働衛生コンサルタント）
五藤　雅博（旭労災病院）　榊原　久隆（名大）
柴田　英治（名大）　清水　高子（清水ヘルスケア事務局）
高柳　泰世（本郷眼科）　谷脇　弘茂（藤田保衛大）
松本　忠雄（名市大）　山田　琢之（愛知医大産業保健科学センター）